

執筆紹介 (五十音順)

いしおか ひろし
石岡 浩

1963年生れ。東洋大学法学部・文学部講師、東海大学文学部講師。早稲田大学第一文学部卒業。早稲田大学大学院文学研究科博士後期課程退学。

〔おもな業績〕「両晋・南朝の劫罪にみる肉刑と治土」(池田温編『日中律令制の諸相』東方書店、2002)、「張家山漢簡「二年律令」盗律にみる磔刑の役割：諸侯王国を視野におく蔽罰の適用」(『史学雑誌』114編11号、2005)、「前漢時代の宥爵と刑罰免除：爵の本質的機能とは」(福井重雅先生古稀・退職記念論集『古代東アジアの社会と文化』汲古書院、2007)、「三国魏文帝の法制改革と妖言罪の弾圧：古代中国法の一つ岐点」(『法制史研究』59号、2010)、「秦漢代の徒隸と司寇：官署に隸属する有職刑徒」(『史学雑誌』121編1号、2012)。

かわむら やすし
川村 康

1961年生れ。関西学院大学法学部教授。早稲田大学法学部卒業。早稲田大学大学院法学研究科博士後期課程退学。

〔おもな業績〕「宋代折杖法初考」(『早稲田法学』65巻4号、1990)、「宋代断例考」(『東洋文化研究所紀要』126冊、1995)、「宋代配役考」(『法と政治』51巻1号、2000)、「宋令変容考」(『法と政治』62巻1号下、2011)、訳註「雜律」(律令研究会編『訳註日本律令8：唐律疏議訳註篇4』東京堂出版、1996)。

しちの としみつ
七野 敏光

1955年生れ。同志社大学法学部講師。関西大学法学部卒業。関西大学大学院法学研究科博士後期課程退学。

〔おもな業績〕「唐開元二十四年礼部貢挙について」(『関西大学法学論集』36巻2号、1986)、「九朝律考および漢唐間正史刑法志」(滋賀秀三編『中国法制史：基本資料の研究』東京大学出版会、1993)、「中国人と姓」(『大阪経済法科大学法学論集』42号、1998)、「元初強姦犯殺害の一裁判案件について」(『大阪経済法科大学法学論集』46号、2000)、「元初刑事裁判手続と法司」(『法と政治』62巻1号下、2011)。

なかむら まさと
中村 正人

1964年生れ。金沢大学人間社会学域法学類教授。金沢大学法学部卒業。京都大学大学院法学研究科博士後期課程退学。

〔おもな業績〕「清代刑法における正当防衛」(『法学論叢』127巻1号・3号、1990)、「清律『夜無故入人家条』小考」(『中国史学』5巻、1995)、「清律『犯罪存留養親』条考」(『金沢法学』42巻2号・43巻3号、2000-2001)、「清律における自首制度の変遷について：強盜犯の自首を中心にして」(『金沢法学』52巻1号、2009)、訳註「断獄」(律令研究会編『訳註日本律令8：唐律疏議訳註篇4』東京堂出版、1996)。